

免疫チェックポイント阻害薬の投与歴があり進行再発肺扁平上皮癌の診断を受け
ネシツムマブ/シスプラチン/ゲムシタピン療法による治療のため、
当院に入院・通院された患者さんの情報を用いた医学系研究のお知らせ

では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間: (倫理委員会審査承認日を入れる) ~ 2023年3月31日

〔研究課題〕

免疫チェックポイント阻害薬既治療進行再発肺扁平上皮癌に対するネシツムマブ/シスプラチン/ゲムシタピン療法の安全性と有効性を評価するための多機関後方視研究

〔研究目的〕

この研究の主な目的は、前治療で免疫チェックポイント阻害薬による治療が行なわれ、その後にネシツムマブ/シスプラチン/ゲムシタピン療法による治療を受けた患者さんの安全性と有効性について、全国の機関における診療録のデータを WDB 臨床研究株式会社(データセンター)に収集し、調査することを目的としています。

〔研究意義〕

前治療で免疫チェックポイント阻害薬が投与され、二次治療以降にネシツムマブ/シスプラチン/ゲムシタピン療法による治療を受けた患者さんの安全性と有効性について調査を行った研究は、日本及び海外でこれまで行われていません。この治療の有効性と安全性について、明らかにすることが急務です。

〔対象・研究方法〕

対象:免疫チェックポイント阻害薬が投与され、二次治療以降にネシツムマブ/シスプラチン/ゲムシタピン療法(2019年11月1日から2022年3月31日までに開始した)による治療を研究代表機関および研究分担機関で受けた患者さん

研究方法:診療記録から研究対象者背景、肺癌に関する情報、ネシツムマブ治療時期、安全性、有効性、後治療に関する情報を収集いたします。この研究期間中には、研究のための検査(血液検査、CT検査など)などはありません。

〔研究機関名〕

帝京大学を研究代表機関として全国の研究分担機関が参加して行います。

〔研究代表者〕帝京大学医学部内科学講座 教授 関 順彦

〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。全国の機関からの情報が WDB 臨床研究株式会社(データセンター)に収集され、契約に基づき帝京大学が監督いたします。また、研究で収集されたデータは、研究終了後に帝京大学臨床研究センターにて10年保管後に廃棄します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公開されません。本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者さんに不利益になることはありません。

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：
研究分担者：
住所：
TEL（内線）：